

論文執筆上の注意

大分大学経済学部教育研究支援室

1. 論文で引用したり，参照したりした文献については明記する。文献の表示については，本文中に（著者名，発行年，ページ）というかたちにしてもよいし，脚注で表記してもよい。なお，脚注で表記する場合も，当該箇所のページを明記すること。
本文注の例：（大橋，2004，p.30）
（Giddens，1998，p.105）
2. 数字等の表記（参考）
数字やアルファベットなどは，原則として半角とする。
本文中において数や量などを表す数字の表記は，原則として単位語（兆，億，万）を付ける。カンマは入れない。
例： 12 億 8600 万人， 15 兆 300 億円
3. 学生懸賞論文集はモノクロ印刷なので、カラー別にすると表現したグラフ等が理解されづらいことに注意して図表を作成すること。
4. 本文注にした場合は巻末に必ず参考文献一覧をつけること。参考文献を表記する際には，次の点に従うこと。（脚注で表記する場合も以下を参考にすること）

【日本語文献】

《単著書の場合》

著者名〔著は省略〕（**発行年**）『**書名**』**出版者**。

副題を含め，正式の書名を明記する。

（例）

橋本俊詔（2002）『安心の経済学——ライフサイクルのリスクにどう対処するか』岩波書店。

《共著書の場合》

共著者名または編著者名〔共著者，共編者を「・」でつなぐ〕（**発行年**）『**書名**』**出版者**。

編者等の場合は，編・編著・監修などを添える。

シリーズ名等を書名の後に丸カッコ内で示してもよい[『書名(シリーズ名)』]。

（例）

原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層——豊かさの中の不平等』東京大学出版会。

埋橋孝文編（2003）『比較のなかの福祉国家（講座 福祉国家のゆくえ）』ミネルヴァ書房。

《雑誌論文の場合》

執筆者名（**発行年**）「**論文タイトル**」『**掲載雑誌名**』**巻号**，**ページ数**〔論文の最初のページと最後のページを pp. - として表示する〕。

（例）

大橋勇雄（2004）「労働法制に関する経済学的な見方」『日本労働研究雑誌』第 523 号，pp. 26-34。

岡崎哲二・澤田充（2003）「銀行統合と金融システムの安定性」『社会経済史学』第 69 巻第 3 号，pp. 25-46。

《共著書中の論文の場合》

執筆者名（発行年）「論題」編著者名 [編・編著・監修などを添える] **『書名』 出版者, ページ数。**

編者等が複数の場合は「・」でつなぐ。ただし、共著者等が多数にのぼる場合は、筆頭編(著)者名に「ほか」を付し、簡略化してもよい。

(例)

高山英男 (2003) 「経済のグローバル化とナショナリズム」大分大学経済学部編『グローバル化と日本経済・社会』ミネルヴァ書房, pp. 2-16。

《訳書の場合》

編著者名 [著は省略] **(訳者名)** [訳を添える] **(発行年) 『書名』 出版者。**

編著者が複数の場合は、スラッシュでつなぐ。翻訳者が複数の場合は「・」でつなぐ。

(例)

G. エスピノーア・アンデルセン (岡沢憲英・宮本太郎監訳) (2001) 『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房。

B. L. ハチンズ/A. ハリソン (大前朔郎・石畑良太郎・高島道枝・安保則夫訳) (1976) 『イギリス工場法の歴史』新評論。

【英語等の文献】

《単著の場合》

著者名（発行年）“書名” 出版地, 出版者。

著者名は、ファミリーネームを先にし、カンマでファーストネーム等を続ける。ただし、著者が複数の場合はファースト・オーサー以外は、ファーストネーム、ファミリーネームの順とする。表記は原則として、原書の表記に従う(ファーストネームおよびミドルネームはイニシャル表記の場合もある

(例)

Giddens, Anthony (1998) “The Third Way: The Renewal of Social Democracy” Cambridge, Polity Press.

《共著書の場合》

著者名または編者名（発行年）“書名” 出版地, 出版者。

複数の著者・編者は and でつなぐ。ただし、共著者等が多数にのぼる場合は、筆頭編(著)者名に et

al.

を用い、簡略化してもよい。

編者などの「編」は, ed. あるいは eds. を丸括弧を用いて補う。

(例)

Piore, Michael J. and Chareles F. Sable (1984) “The Second Industrial Divide: Possibilities for Prosperity” New York, Basic Books Inc..

Beardwell, Ian J. (eds.) “Contemporary Industrial Relations: A Critical Analysis” Oxford, Oxford University Press.

《雑誌論文の場合》

執筆者名（発行年）‘論文タイトル’ 掲載雑誌名 [イタリック], **巻号, ページ数** [論文の最初のページと最後のページを pp. - として表示する].

(例)

Strathdee, Robert (2004) ‘Outsourcing and Provision of Welfare-related Services to Unemployed

Youth in New Zealand' *Cambridge Journal of Economics*, vol.28 No.1, pp.59-72.

Brown, W., S. Deakin, M. Hadson, C. Pratten and P. Ryan (2001) 'The Limits of Statutory Trade Union Recognition' *Industrial Relations Journal*, 32-3, pp.235-261.

《共著書中の論文の場合》

執筆者名（発行年） ‘論題’ 編著者名[ed. あるいは eds. を丸括弧に入れて添える] **“書名” 出版地, 出版者, ページ数.**

(例)

Hyman, Richard (1995) 'The Historical Evaluation of British Industrial Relations' Edwards, Paul(eds.) "Industrial Relations: Theory and Practice in Britain" Oxford, Blackwell, pp. 95-126.

なお、同書、前掲書を示す *ibid*, *op. cit.* はイタリックにする。

【Website】

《インターネット上の図書、雑誌論文を利用した場合》

冊子体の図書、雑誌論文の表記方法に準じ、最後に入手先の URL と入手日付を記す。

(例)

大分県企画振興部統計調査課 (2013) 『大分県統計年鑑 平成 24 年版』
(<http://www.pref.oita.jp/site/toukei/h24soumokuji.html>) 参照 2013. 4. 16。

(例)

朝水宗彦 (2012) 「オーストラリアにおける観光客の多様化と教育観光」『日本国際観光学会論文集』
第 19 号, pp. 5-11 (http://www.jafit.jp/thesis/pdf/12_01.pdf) 参照 2013. 4. 16。

《ウェブページを利用した場合》

著者名（更新日付）[記載があれば記入] **「ウェブページの題名」 ウェブサイトの名称（URL） 入手日付。**

(例)

ツーリズムおおいた「平成 23 年度事業報告について」大分県観光情報公式サイト
(<http://www.visit-oita.jp/aboutus/report.data/23jigyohoukoku.pdf>) 参照 2013. 4. 16。